



第388号
発行所
文通村事務局
編集 広報部
千葉県成田市

言葉を越えて 分かち合う時間

オチのない楽しみ

とある昔からの友人と話しているとよくある会話。友人が話している途中、私が「うんうん、それで？」と会話の先を促すと「いや、それで終わりなんだけど」という唐突な話の終わり。よく言う「オチのない話」というのが多い友人とはそんなやりとりがよく見られます。

くあるそんなやりとりは意外とそんな心地の悪さを感じないもの。何でだろうと考えたところ、ふと思ったのは話の結論を聞きたいというより、その人との話そのものを楽しんでるからなんだろうな、ということ。

オチのない話というとは思いますが、そんな空間を楽しめる間柄だからこそ長く居心地の良い関係を続けられているよ

きつとオチがあった方がより楽しいのだから、そんな空間を楽しめる間柄だからこそ長く居心地の良い関係を続けられているよ

封筒を開けると、誰かの「あのとき」が、そっと手のひらに落ちてくる。今の時代、メッセージはすぐに届く。既読もつく。こんな便利な世の中に感謝しつつも、手紙の魅力も際立つ時代になった。手書きの文字には思いがにじみ、あれこれ悩んだ時間があった。切手を貼ってポストまで歩いた事

実がある。そのすべての時間が、一枚の手紙の上に乗っている。お互いはそれぞれの日常を生きている。笑ったり、迷ったり、窓の外を眺めたり。つながっていないようで、同じ空の下でつながっている。だと思ふ。だから、手紙が届く日はいつもの日常に誰かの時間が加わって特別なものへと変わるのだ。

誰かの時間

届いている。だから、手紙の封を切ったときそこにあるのは言葉だけではない。あの人が選んだ便箋の柄、少し傾いた文字、にじんだインク、相手の「時間」がそのまま届いている。手紙はプレゼントだと思ふ。だから、手紙が届く日はいつもの日常に誰かの時間が加わって特別なものへと変わるのだ。

届いている。だから、手紙の封を切ったときそこにあるのは言葉だけではない。あの人が選んだ便箋の柄、少し傾いた文字、にじんだインク、相手の「時間」がそのまま届いている。手紙はプレゼントだと思ふ。だから、手紙が届く日はいつもの日常に誰かの時間が加わって特別なものへと変わるのだ。

届いている。だから、手紙の封を切ったときそこにあるのは言葉だけではない。あの人が選んだ便箋の柄、少し傾いた文字、にじんだインク、相手の「時間」がそのまま届いている。手紙はプレゼントだと思ふ。だから、手紙が届く日はいつもの日常に誰かの時間が加わって特別なものへと変わるのだ。



うな気がします。

それはまるで文通のよな関係。メールは用件など、何かを伝えるために使われることが多いもの。すぐに伝えたいことが送られて、簡潔に用件が伝えられるので、そういう使い方をするのに便利なものです。

文通は伝えたい言葉を書くことも、相手まで届けることも時間がかかる。「不便」なもの。

風に揺られて誰かに届け 風船便

風船便はいつでも誰でも参加できますが、その受取は新規の方へ優先されます。送り方は簡単♪下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだす。事務同様に流す。宛封下まで交り局用封今いま



今年の目標

★言葉の冊子

毎年恒例イベント「言葉の冊子」今年の目標「にたくさんの投稿ありがとうございました。WEB上への掲載は2月27日頃を予定しておりますので、ぜひご覧ください！」

次回発送日

次回発送日は3月9日、

23日の予定です。送りた

いお手紙がある場合はそれぞれ6日と20日までに事務局に到着することをお近くの郵便局で確認の上、ポストに投函して下さい。これは発送に間に合わせる一つの目安です。ご自身のペースを優先してください。

